

## 第七戒「姦淫してはならない。」

### 1 色々勝手に考えてはダメ。何を問題にしているかを知った上で。

姦淫(adultery)はちょっと古い言い方で、今で言う不倫です。しかも聖書で問題にしているのは、ヨセフを誘惑したポティファルの妻(創世記 39:9)、ウリヤの妻バテシバを奪ったダビデ(サムエル記下 12:9, 13)などがしたことで、結婚の契約を交わした関係を壊す不倫です。この問題の大きさを聖書から深く認識させられたなら、他の性に関する様々な悪行も犯してはならないと思うようになるでしょう。

### 2 結婚の契約を交わした者の不倫が問題。その理由は?

旧約聖書には姦淫という表現が沢山出て来ます。先に挙げたように人間間の場合もありますが、イスラエル人たちが自分たちをエジプトから救い出して下さった神様を忘れて他の神様に走った時に、神様は「姦淫の罪を犯した」と言われているのです(イザヤ書 57:1-13、ホセア書全体のテーマ)。食欲と性欲は人間が生き、絶えないために神様が与えて下さった必要な欲求とも言え、それ自体を罪としたり汚らわしいと思ったりする必要のないものです。しかし、必要以上に他の人のものを奪うとなると大きな悲劇を生み出します。相手と持てる信頼関係が結婚の恵み喜びであり、それが壊れてしまうからです(映画「幸福」アニエス・ヴァルダ監督)。それは神様が結婚に込めて与えて下さった恵みを打ち壊す行為であり、故にダビデは「私は主に罪を犯した」と言ったのです。イスラエルの民が他の神に走ったことを神様が姦淫の罪と表現されたことに、その罪の大きさが現れています。

### 3 全ての性的悪行は、この信頼破壊を起こす、主に対する罪である。

以上のように、不倫は結婚の契約を交わした二人の間に生まれた信頼関係を破壊する大きな罪ですが、それは結婚した者だけの問題ではなく、それ以外の性的悪行においてもあてはまります。すなわち、自分本位の欲望を満たす性的悪行は相手との信頼関係を破壊し、相手を深く傷つけます。繰り返しますが、性欲はそれ自体罪ではなく、相手を重んじあう愛においては新しい命の誕生という大きな恵みにつながる祝福されたものなのです(クリュソストモス)。誰が見ていなくても神様は見ておられます。性に関する第七戒は、相手と共に主を重んじる中で守られる時にこそ、大きな祝福が用意されたものなのです。